

目指すべき学校像	国際社会に生きる人材育成を最高の目標とし、人格の完成、豊かな情操を育み、探求心旺盛な自主的・自律的な精神に満ちた心身共に健全な人間育成に期する。
----------	--

重点目標	A 民族教育 建学の精神を伝え、教育目標が高い次元で実現するように協力体制をつくる。 B 学習 わかりやすい授業により、基礎を固め更なる学力向上を目指す。 C 生活習慣 規範意識・基本的な生活習慣を固め、心身共に健やかな成長を目指す。 D 環境整備 学習環境を整え、清潔で整備された学校を目指す。 E 人権教育 人権の重要性を認識し、自他共に尊重する教育を目指す。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (80%以上)
	B	概ね達成 (60%以上)
	C	変化が見られる (40%以上)
	D	不十分 (40%未満)

達成度は生徒アンケートで、「よく当てはまる」「やや当てはまる」の数値 (%) の合計で表す。

年度目標		学校評価				年度評価	
重点目標	設問番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
A	1. 2. 3. 20	昨年度、設問20「記念講話などで話される内容を理解できる。」に対する肯定的な回答が58%にとどまったのを受け改善の努力が必要な状態である。本校創立の背景・経緯を理解し、学校運営の継続がいかに意義のあることであるかを理解することにより、本校で学ぶことへの誇りを持たせることができるよう継続的な取り組みが必要な状況である。	生徒自身が学校創立の背景を理解し、誇りを感じることができる取り組みの実施。	・記念講話の実施に先立ち、生徒達への資料配布に留まらず、事前に講義内容を広く揭示し、その意義を周知。 ・創立記念講話においては、校長による講話を通し実施創立当時の状況や苦難を乗り越えた経緯を生徒たちがより深く理解できる内容で実施。	・「学校に誇りを感じる」生徒が80%を超える。 ・「学校創立の精神と歴史を理解している」生徒が80%を超える。 ・「教育理念・目標を理解している」生徒が80%を超える。	・「学校に誇りを感じる」生徒は79%。 ・「学校創立の精神と歴史を理解している」生徒は62%。 ・「教育理念・目標を理解している」生徒が55%。 ・「記念講話などで話される内容を理解できる。」生徒が67%。 ・設問1～3. 20の平均で66%となった。 ・設問2では、肯定的な回答が55%に留まった。	B
B	4. 5. 6. 19	昨年度の結果から生徒は概ね授業への取り組みが積極的にできている状況である。近年、韓国から来た生徒で日本語の理解力が十分でない生徒の比率が増えてきたことから、そのバックアップ体制が必要である。また、生徒たちが理解しやすい授業の確立・生徒の置かれた状況を把握するための「スコラ」の活用を継続している状態である。	積極的な学習活動への取り組み	・IT機器(電子黒板)を活用した授業の推進。 ・日本語韓国語併記による板書、教材準備の推進。 ・学習活動記録手帳「スコラ」の活用方法を生徒に再確認させることにより、自身の学校生活の指標になるように位置づける。	・日々の「スコラ」の記入と提出の徹底。 ・「スコラ」の活用による成果が現れるように、的確に生徒たちの行動を見守る。 ・「授業に集中している」「授業が分かりやすい」生徒が80%を超える。	・「授業に集中している」生徒が79%となり、昨年と同様となった。 ・「授業は工夫されていてわかりやすい。」が61%から69%、「授業のわかりやすさ」が60%から69%、「学習に熱心に取り組んでいる。」が71%から82%へ上昇している。	B
C	7. 8. 9. 10. 11. 16	・概ね生徒たちは、本校での学校生活に満足感を感じている。学校の安全性、行事に対する満足感、挨拶や言葉遣い、学校施設や環境に対して肯定的な生徒が90%近くいる。 ・生徒に最も近い担任や教科担当の指導力、授業力の向上が生徒の学校生活充実に対して不可欠な部分であるので、より一層の力量向上が望まれる状態である。	学校生活の充実に関する取り組み	・登校指導の継続。 ・毎週の朝礼時での生活目標の確認と励行の呼びかけ。	・該当項目(7, 16)に対する肯定的な生徒が平均で80%を超える。	・肯定的な生徒の平均が88%となり、昨年同様の割合を維持している。	A
		安全・安心で規律正しい学校生活づくりの推進	・災害発生時に対応できる防災避難訓練の充実。 ・校則の適切な指示・指導の徹底。 ・スタディサブリの利用により、保護者への適切な情報提供の実施。 ・外部講師による防犯教室、薬物乱用防止教室の実施。 ・SNSの正しい利用方法の講習の実施。	・「安心・安全な学校である」「教員の指導は校則に従って適切に行われている。」の肯定的な生徒が平均で80%を超える。	・肯定的な生徒の平均が81%となり、昨年同様の割合を維持している。		
		充実した学校行事の推進	・生徒の主体的な学校行事への取り組みの実践。 ・より教育効果を高めるため、内容・実施時期等の精査。	・学校行事に関する項目(9, 10)の肯定的な生徒が平均で80%を超える。	・肯定的な生徒の平均が77%となり、昨年同様の割合を維持している。		
D	17. 18	・校舎の全面リニューアルから2年が経過したが、生徒たちの環境維持に対する意識が平均的に高く、施設や設備などは良い状態で維持できている。ただ、一部の生徒に故意に施設を乱暴に扱ったりする傾向が見られる事もある。	美化意識の向上から教育環境の健全化と安全な学校づくりを目指す。	・校内美化状況の確認、点検方法の見直し。 ・清掃活動奨励の強化。 ・清掃用具の点検と充実。 ・生徒会の美化委員による自主的な美化意識の向上。	・日常生活の中から常に教室内が整理整頓された状態であるように心がける意識を持たせる。 ・美化意識が強い生徒が80%を超える。	・美化、清掃への取り組みや施設、備品の扱いに関する肯定的な生徒の割合が96%となっている。 ・日ごろの清掃活動から生徒たちが「自分たちの学校」として、本校に愛着を感じていることを感じ取ることができる。	A
E	12. 13. 14. 15	道徳やH, Rの時間を利用した校内での「差別」「平等」「国籍」「違い」等をテーマとした人権学習や、外部団体と協力して行われる「高齢者施設訪問」「身体障害者理解学習」「車椅子体験」等は継続されており一定の効果を上げていると思われる。近年、様々な要因で不登校傾向を示す生徒が増えていく中、このような状況に対し、生徒が人権的な観点から理解し対応できる心の持ち方を育てる必要があると考えたと共に、「悩みを相談できる環境がある」という設問に対する肯定的な生徒が65%にとどまっており、対応が必要な状況である。	自分を認め、他人の存在を認める「心」の余裕を身につける。	・学内、学外を問わず、人権教育の強化。 ・生徒の悩みや相談に迅速に回答できるよう、担任任せではなく、複数の教員が生徒に対応する体制を確立する。 ・スクールカウンセラーとの面談ができやすいようなシステムをつくる。 ・生徒の人格を尊重し、個々の生徒の状況に合わせた教員の指導の在り方を徹底する。	・教員による指導の在り方や生徒の性格等の把握に対して肯定的な回答が80%を超える。 ・悩みを相談しやすいと答える生徒の割合が80%を超える。	・教員の指導の適切性や生徒の人権を尊重した態度で接しているか、また、生徒一人ひとりの把握に関しての項目は全て、85%を上回った。 ・「生徒が悩みの相談をしやすい環境である」という設問に対する肯定的な回答が64%にとどまった。	B

学校関係者評価	
実施日	2018年 3月 17日
学校関係者の意見・評価等	
<p>[教育目標関連] ・「きちんと挨拶ができる」、「目上の人に丁寧な言葉遣いをしている」は生徒・保護者共に評価が高いことから基本的な礼儀習慣が備わっているようだ。 ・「学校に誇りを持っている」の評価が高い一方、「教育理念・目標を理解している」は低いことから、民族学校としての認識は各学年で理解度に差があると思われる。中学生全体に認識できる伝え方で学校行事を通して取組んでいただきたい。 [学習関連] ・今年度より実施されているモーニングテストは、生徒たちの学習意欲向上のきっかけとなっているので継続してほしい。また、モーニングテストの結果及び出席状況が家庭に郵送されることで、学校生活の一部ではあるものの子供の現状把握には役立っているようだ。 ・本来ならば生徒の回答が100%でなければいけない「授業は工夫されていてわかりやすい」「授業のわからないところなどについて質問しやすい」が60%前半であり、よくあてはまるはわずかに6～8%である。これに対し、教員の自己評価は4.1(約80%)である事から生徒と教員の認識に大きな隔たりがあると見える。また、授業の進め方についても板書の写し方に問題があったり、教科によっては授業時間が足りないなどの問題もあり、教える側の更なる工夫は必要であるといえる。 生徒の「学習に熱心に取組んでいる」「授業は集中して聞いている」の%はたかいことから個々に学びたい意欲はあるものの、勉強がわからない状態にあると思われる。保護者の評価も生徒と同じであることから、工夫されてわかりやすい授業、分らない事は聞ける環境があつてこそ生徒の学習意欲が高まり、結果学力の底上げに繋がると考える。 [教育環境] ・「悩みを相談する環境がある」で生徒・保護者共に60%に対して教員評価は80%である。思春期の子供たちは親や教員、友達、先輩にも自分の思いを口に出す又は、うまく伝えることが出来ない時期であり、小さな悩みから大きなトラブルに発展する事が多いようである。第三者に話をすることで解決にならなくても気持ちを整理したり、糸口を探す事が出来ることある。心の平穏は学校生活、家庭生活に直結するのでスクールカウンセラーの積極的な活用を願うものである。また、建国は民族学校の為、韓国からの転入生と日本で生まれ育った生徒の間で、言葉の壁によるストレスを抱えた生徒もいる現状があり、専門家による心理面のフォローは教育的観点からも必要であると考え。現在、スクールカウンセラー1名、週1回のカウンセリングであるが、生徒数470名に対してカウンセラー1名の為、予約待ちで諦めてしまう生徒が多数いる。保護者としてカウンセラー2名に増員又は、回数を週2～3回に増やして頂けることを切に要望するものである。 [総評] ・アンケートの全体を見ると各項目で概ね60%以上の肯定的な回答であることから一定の評価水準には達していると思われる。しかしながら、学習面で生徒・保護者・教員間の意識に隔たりがあることも分かり、生徒が意欲を持って学べる環境作りが教員に求められているといえる。学習面・心理面の支えも合わせて充実した学校生活を送れることを期待する。</p>	